

アンケート調査結果概要

アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的

柔軟かつ機動的に都市再生を進めていくためには、既存の統計データ等の更なる活用に加え、人流や消費活動などのオルタナティブデータ等を積極的に活用することで、都市再生のPDCAや民間投資の呼び込みを促進していくことが重要であるとの認識に立ち、データの利活用にあたり自治体が抱える課題等を把握し、その課題解決に向けた検討を行うことや、データを活用した都市再生の優良事例を収集し、広く水平展開することを目的として調査を実施。

2. アンケート調査実施概要

- 調査対象：全国の都市再生緊急整備地域 50地域（39自治体）

※既指定地域48地域に、令和3年9月1日付新規指定の「福岡箱崎地域」と候補地域である「新大阪駅周辺地域」の回答を加えた合計数。

- 調査手法：e-mail法
- 調査期間：令和3年9月1日～9月15日

3. アンケート回収状況

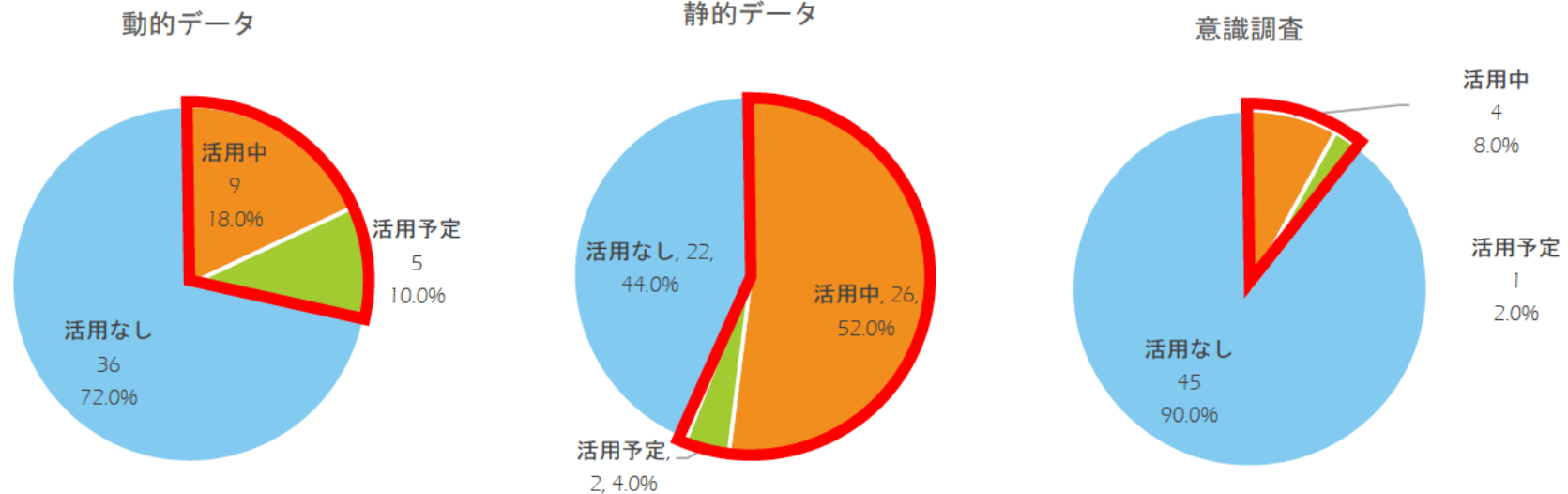
- 50件（100%）

都市再生等において、データを施策の効果検証や検討に活用している都市再生緊急整備地域

- 都市再生等において、データを施策の効果検証や検討に活用している自治体は25（64.1%）
- 都市再生緊急整備地域ベースでは29地域（58.0%）
 - ・動的データを活用中の地域は9（18.0%）。現在使っていないが活用を予定している地域は5（10.0%）
 - ・静的データを活用中の地域は26（52.0%）。現在使っていないが活用を予定している地域は2（4.0%）
 - ・意識調査（アンケート）を活用中の地域は4（8.0%）。現在使っていないが活用を予定している地域は1（2.0%）

データを施策の効果検証や検討に活用している都市再生緊急整備地域

N=50



現在データを活用していて、追加的に別のデータを活用したい都市再生緊急整備地域は「活用している」でカウント。

都市再生の指標と活用目的

- 人口、交通、歩行者交通量、回遊・動線、滞在、来訪等が多用されている。街のベーシックな活動量を表すとともに、特定の目的・地区への分析に用いられている。
 - ・例えば、整備地域への誘導、イベントへの参加人数、交通計画策定、駅整備による街全体への回遊状況の把握等
- 指標（案）に記載されていないものとしては、下記のような例があった。
 - ・街全体をはかるものとして、開発機能の機能別集積や人口集積などを示す指標
 - ・産業関連（製造業等）、経済波及効果
 - ・防災での帰宅困難者等
 - ・利用者属性、意識調査（アンケート）等

都市再生の指標と活動目的

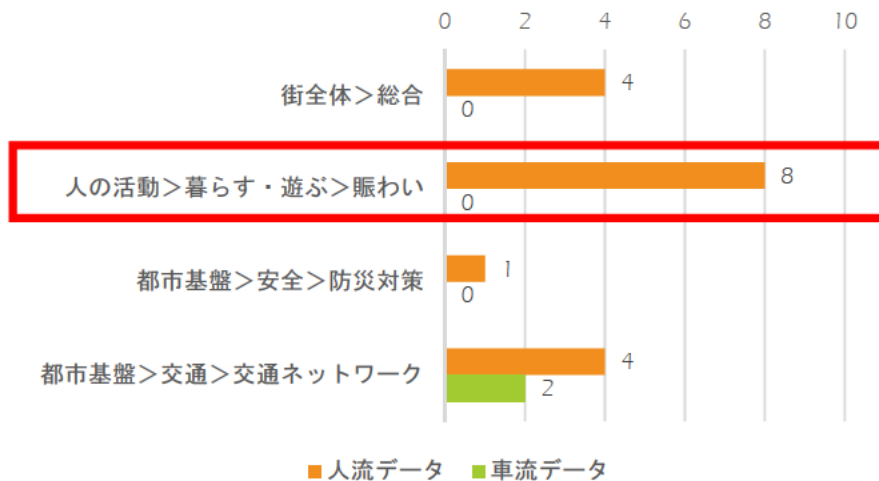
	人口 世帯	地価	街の魅力	交通量・自転車、鉄道)	歩行者交通量	回遊範囲・動線確認	滞在	来訪	満足度	認知度	属性	開発 機能構成 機能誘導	業務	商業	観光	賑わい	国際化	産業	安心安全	環境
	人口 世帯、人口密度	路線価、地域内価	街の魅力	公共交通利用者、主要駅の乗客数、自転車交通量等	歩行者交通量	回遊範囲・動線確認	滞在時間、滞在人口	来訪者数、来街者の行動様式等	住民満足度	認知度	利用者属性等	都市開発事業数、土地利用状況、経済波及効果など	業務機能、新規雇用者数、会議室の利用者数	小売業年間販売額、空き店舗等の率	観光客数、観光消費額、外国人来訪者数等	公園の利用件数、市民との共催事業回数	国際性、外国人市民向けポータルサイトのアクセス数	製造品出荷額等占有率	帰宅困難者予想、人身事故件数の減少、リスク対策等	緑視率
街全体 ＞総合	8	3	2	2	12		1		1	1	6							1		
人の活動 ＞働く ＞オフィス												5								
人の活動 ＞暮らす・遊ぶ ＞商業施設													3							
人の活動 ＞暮らす・遊ぶ ＞宿泊施設														4						
人の活動 ＞暮らす・遊ぶ ＞賑わい					1	2	4	3		2	1	1			2					
人の活動 ＞その他 ＞国際性															1		2			
都市基盤 ＞環境 ＞緑化																				1
都市基盤 ＞交通 ＞交通ネットワーク				22	5	3	2													
都市基盤 ＞交通 ＞都市のリスクマネジメント					1															1
都市基盤 ＞安全 ＞防災対策						1														2
都市基盤 ＞安全 ＞防犯対策																				1
総計	8	3	2	24	19	6	7	3	1	1	2	7	6	3	5	2	2	1	4	1

都市再生等において、施策の効果検証や検討に活用する指標の目的

- 街全体の総合評価、交通ネットワーク関連のためのデータ取得が動的・静的を問わず多い。
- 動的データについては、上記に加えて、賑わい及び防災対策を測る目的として活用もしくは活用を予定されている。それ以外の施策検証には、殆ど活用されていない。
- 静的データも、効果を検証している施策は賑わい、オフィス、宿泊など限定的であり、たとえば文化・教育・医療などを測るデータは利用されていない。

施策の効果検証や検討に活用している
指標を獲得するための動的データ

N=18 (自治体数)



施策の効果検証や検討に活用している
指標を獲得するための静的データ

N=24 (自治体数)



※ 1自治体で複数のデータを活用 (予定を含む)

都市再生等において、施策の効果検証や検討に活用する指標取得のための動的データ (1/2)

施策の効果検証や検討に活用している指標（動的データ）

N=18（自治体）

緑字は指標検討（案）にないもの

指標分類_指標案	指標	データ区分	活用データ	目的・活用方法	活用状況
街全体>総合	歩行者通行量	人流	通行量データ	中央商店街の活性化や、にぎわいの創出について、歩行者通行量データを取得し、分析後の統計データを市のHP、オープンデータとして公表している。また、平成17年から継続的に施行している、市街地再開発事業の効果指標として活用している。	活用中
街全体>総合	歩行者交通量	人流	人流データ	蓄積された人流データを生かした都心の課題解決の取組を官民連携で進めて行くことを検討している。	予定
街全体>総合	断面歩行者交通量	人流	人流データ (赤外線センサ)	地区内に赤外線センサを広域に配置し、街全体の人の流れの見える化や再整備の効果検証に活用する。	活用中
街全体>総合	滞在人口、通行人口	人流	人流データ	人流データをオープンデータ化し、R3.9.1より公開開始。都市再生分野での活用については、現時点では未定。	予定
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	人の流れの創出	人流	人流データ	事業全体の成果を見る指標の一つとして、特定地域に来街した人が区内の回遊に繋がっているかGPSデータを取得し分析・評価をする。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	複数公園の回遊状況	人流	Wi-Fiセンシング	地域内の複数の公園の回遊状況を調査、把握し、歩行者回遊の広がりを評価する。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	地域内の歩行者滞在時間	人流	スマホアプリデータ	時間消費型のまちづくりに向けて、滞在時間の拡大状況を評価する。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	来訪者の平均滞在時間	人流	モバイルデータ	地域内における人の滞在時間を計測することで、交流人口の増加や賑わい創出等について評価する。	予定
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	滞在人口 (特定地点での)	人流	人流データ (流動客調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の賑わいや交流の創出について、人流の変化により評価する。 ・人の流れを把握し、出店等の際の参考とする ・ターゲットを設定したイベントの検討 	予定
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	再開発エリアへの人流	人流	人流データ	<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅から再開発エリアへの人流の定量的観察。 ・他都市の事例を参考にした再開発前後の人流の変化の評価。 	活用中

都市再生等において、施策の効果検証や検討に活用する指標取得のための動的データ (2/2)

施策の効果検証や検討に活用している指標（動的データ）

N=18（自治体）

緑字は指標検討（案）にないもの

指標分類__指標案	指標	データ区分	活用データ	目的・活用方法	活用状況
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	来訪者位置情報 属性情報	人流	人流データ	駅前広場等の基盤整備がまちに与える影響の把握や駅前整備パターン等の検討のため、歩行回遊シミュレーションによる評価・検討を実施	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	滞留人口	人流	人流データ	駅前広場等の基盤整備がまちに与える影響の把握や駅前整備パターン等の検討のため、歩行回遊シミュレーションによる評価・検討を実施	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク（駅広）	来訪者滞在時間、周辺行動、回遊場所等	人流	人流データ	駅前広場等の基盤整備がまちに与える影響の把握や駅前整備パターン等の検討のため、歩行回遊シミュレーションによる評価・検討を実施	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク	歩行者経路	人流	人流データ	駅前広場等の基盤整備がまちに与える影響の把握や駅前整備パターン等の検討のため、歩行回遊シミュレーションによる評価・検討を実施	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク	歩行者回遊状況	人流	PPデータ （プローブパーソン）	新モビリティサービスの導入に伴う回遊状況の変化（回遊性向上など）を評価する。	予定
都市基盤>交通>交通ネットワーク	域内の発生集中量等	車流	端末位置情報等 （ビッグデータ）	交通流動実態（域内の発生集中量及び市域南部の主要駅から域内へのアクセス状況）を把握し、交通環境の向上に向けた方策を検討する	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク	歩行者・自動車交通量	人流 車流	人流データ 車流データ	令和2年8月から実施しているウォークアブル社会実験での歩行者及び自動車の交通量の変化について、人流データを活用し評価を実施。	活用中
都市基盤>安全>防災対策	災害時における帰宅困難者の避難誘導	人流	人流データ	災害時における帰宅困難者対策として、地区内の一時退避場所、退避施設への人流をカメラやセンサーで把握して、有効な避難場所等への誘導を行うことを目的とする。	予定

都市再生等において、施策の効果検証や検討に活用する指標取得のための静的データ (1/2)

施策の効果検証や検討に活用している指標（静的データ・抜粋）

N=24（自治体）

現在の指標検討（案）にないものを抜粋

指標分類_指標案	指標	活用データ	目的・活用方法	活用状況
街全体>総合	居住誘導区域内の人口密度	居住誘導区域内の人口密度	立地適正化計画の数値目標で活用	活用中
街全体>総合	まちなか人口の比率	総人口・まちなか地区の人口	都市再生整備計画の目標を定量化する指標として活用。	活用中
街全体>総合	特定駅利用者	鉄道乗降人員	駅の使いやすさ、地域への来街者数の変化を把握し、地域の認知度、利用勝手、魅力等を評価する。	活用中
街全体>総合	認知度	区民意識調査	事業全体の成果を見る指標の一つとして、地域の認知度を評価する。	活用中
街全体>総合	都市再生緊急整備地域において都市計画提案制度に基づき都市計画決定された都市開発事業数	市所有データ (都市開発事業数)	高次都市機能の集積及び新たな都市空間の創出が図られる都市開発事業を促進することにより、都市の活力の維持・向上を目指しているため。	活用中
街全体>総合	駅周辺の土地利用の状況、建物の特徴	・建物床面積調査データ ・土地利用現況調査データ	駅周辺の土地利用の状況、建物の特徴から、今後都市再生緊急整備地域に指定すべき範囲の分析に活用する。	活用中
街全体>総合	経済波及効果	経済関連表（検討中）	事業全体の成果を見る指標の一つとして、区内への経済波及効果を算出する。	予定
街全体>総合	住民満足度	住民意識調査	区政に対する住民の評価並びにニーズの状況及び変化を把握し、顧客満足度を評価する。	活用中
街全体>総合	土地利用状況 (用途、容積率、建ぺい率等)	土地・建物登記情報等	土地利用状況（域内の用途分布及び高度利用状況等）を把握し、更なる企業集積の促進に向けた方策を検討する。	活用中
街全体>総合	誘導用途立地状況 (立地件数、床面積等)	建築確認申請データ	誘導用途（工場、研究施設及び事務所）等の立地動向を把握し、施策効果の検証を行う。	活用中
街全体>総合（産業）	製造品出荷額等占有率 (市域全体の製造品出荷額等に占める、対象地域内に立地する企業の製造品出荷額等の割合)	製造品出荷額等	産業集積を目指す地域をはじめとする南部・西部地域等において、ものづくり企業が集積しているかを評価する。	活用中
人の活動>働く>オフィス	就業者数	労働力調査	雇用の質・量を高める取組により、地域の活力を生み出す雇用等の創出を図ることを目指しているため。	活用中

都市再生等において、施策の効果検証や検討に活用する指標取得のための静的データ (2/2)

施策の効果検証や検討に活用している指標（静的データ・抜粋）

N=24（自治体）

現在の指標検討（案）にないものを抜粋

指標分類_指標案	指標	活用データ	目的・活用方法	活用状況
人の活動>働く>オフィス	会議室の利用者数	1年当りの施設利用者数	都市再生整備計画の目標を定量化する指標として活用。	予定
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	中心市街地の新規雇用者数	中心市街地の新規雇用者数	中心市街地活性化基本計画の数値目標で活用	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	誘導施設の利用者数	誘導施設の利用者数	施設機能の拡充および複合化による利用者数の増加が見込めるか評価する。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	来街者の行動様式	実態確認調査	平常時及びイベント時の来街者の行動を目視等により調査し、都市空間の活用方法、来街者の回遊拡大方法について検討する。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	中心市街地の利用者状況	中心市街地の利用目的及び滞留時間など	中心市街地に対する意識調査を実施し、その調査結果と回答者の属性（性別・年代・職業等）を併せて分析することにより、現状の中心市街地の利用者を把握し、今後の中心市街地の施策の参考とする。	予定
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	公園の利用件数	1年当りの使用届及び行為許可による件数	都市再生整備計画の目標を定量化する指標として活用。	活用中
人の活動>暮らす・遊ぶ>賑わい	市民との共催事業回数	市民との共催事業回数	交流の促進による市民との共催事業回数の増加が見込めるか評価する。	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク	公共交通利便区域の人口カバー率	公共交通利便区域の人口カバー率	立地適正化計画の数値目標で活用	活用中
都市基盤>交通>交通ネットワーク	渋滞長の減少	渋滞長	高架下道路の改良及びバスルート見直しによって、渋滞長の減少するか評価する。	活用中
都市基盤>安全>防犯対策	人身事故件数の減少	人身事故件数	歩行空間の整備に伴う交通安全機能向上によって事故件数の減少するか評価する。	活用中
都市基盤>安全>防災対策	帰宅困難者数予想	パーソントリップ調査(H22年次)	市域における帰宅困難者対策の推計等の調査・分析を行うため。	活用中

活用データ、取得方法

- 動的データ（人流、車流）は、データ購入が多いが、実際にデータ計測を行う場合もある。
- 類似の指標でも、活用するデータ取得方法は異なる場合もある。
- 静的データは文献調査・オープンデータ（自治体内部を含む）等での把握、事業者や自治体内他部署への照会等により把握することが殆ど。ただし、業務委託により把握する場合もある。
- それ以外に、アンケート調査等により意識や行動を調査する場合もある。交通量調査や目視による行動様式など。

動的データの取得方法の例

類似の目的のデータでも、データの取得方法は異なる。

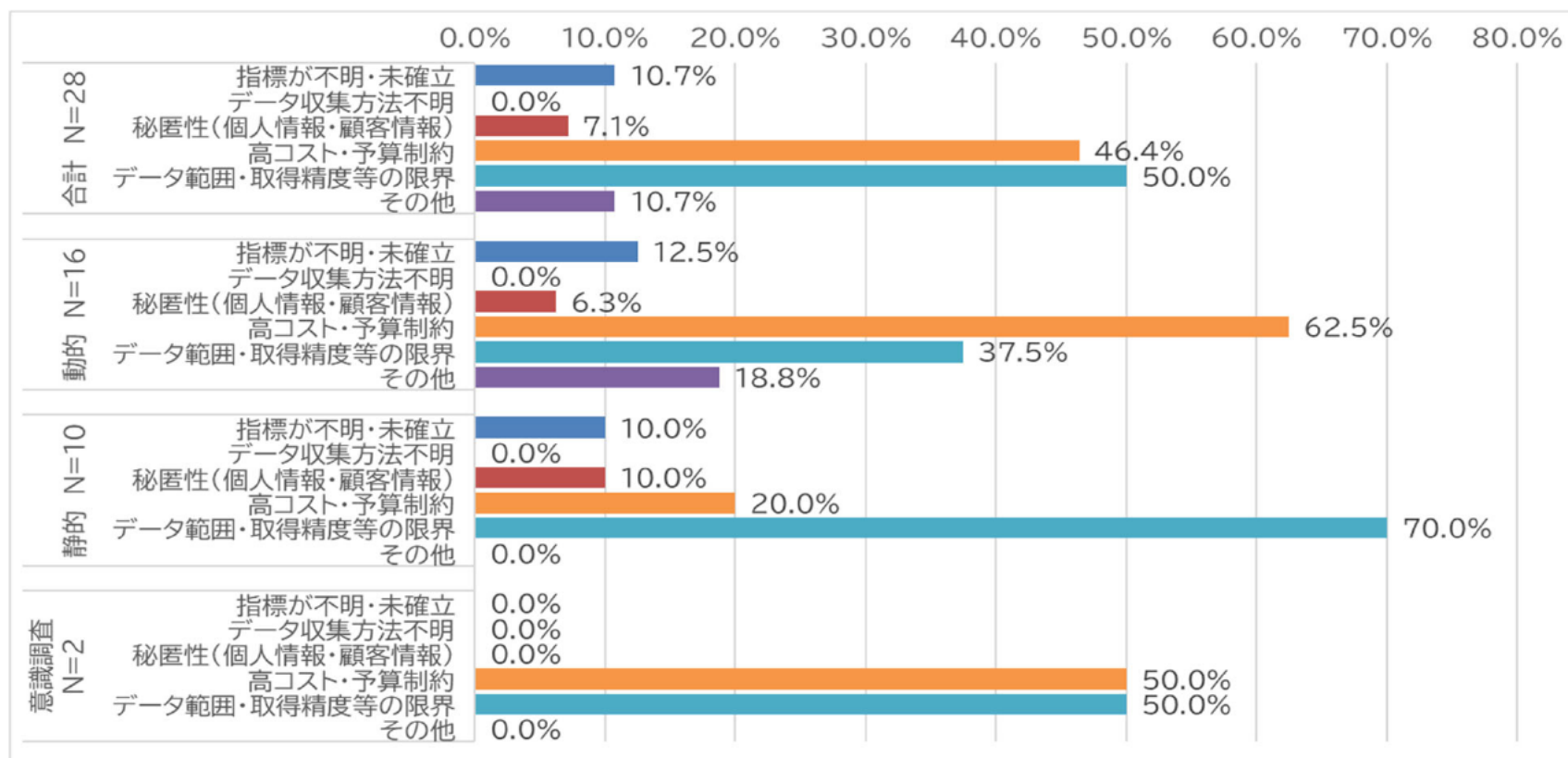
指標	指標仕分け	活用データ	データの取得方法
4公園の回遊状況	回遊範囲・動線確認	WiFiセンシング	業務委託
歩行者経路	回遊範囲・動線確認	人流データ	WiFiセンサーによる調査
来訪者位置情報、属性情報	回遊範囲・動線確認 来訪者属性	人流データ	業者から購入
人の流れの創出	回遊範囲・動線確認	人流データ	業者から購入
歩行者・自動車交通量	歩行者交通量 自動車交通量	人流データ 車流データ	業者から購入（無償トライアル活用）
・来訪者数 ・滞在時間 ・回遊性 等	来訪者数 滞在時間 回遊範囲・動線確認	人流データ	事業者から提供
域内の発生集中量等	自動車交通量（発生集中量）	端末位置情報等 （ビッグデータ）	業務委託
歩行者通行量	歩行者交通量	人流データ	業者が作成したシステムを利用
断面歩行者交通量	歩行者交通量	人流データ （赤外線センサ）	共同実証実験（民間事業者との個別協定）
歩行者通行量	歩行者交通量	通行量データ	ビデオカメラ計測画像解析
再開発エリアへの人流	来訪者数	人流データ	業者より購入（窓口は別所属）
危険挙動発生個所の可視化	リスク対策	エコドライブイベント等で、一定期間市民等に提供するテレマティクス技術を搭載した車載器から収集される走行データ	包括連携協定企業より提供

データ収集時における困難や課題

- 全体的には「データ範囲・取得精度等の限界」、次いで「高コスト・予算制約」が多い。
- 動的データ（人流、車流）では「高コスト・予算制約」が6割強、次に4割弱が「データ範囲・取得精度等の限界」。後者については、データ精度への疑問（実数ではなく拡大推計値であるなど）。
- 静的データ（各種統計データ）では「データ範囲・取得精度等の限界」が7割、次に2割が「高コスト・予算制約」。特に測定したい地域に対してデータが粗すぎる点、更新サイクルが長すぎ、かつタイムラグが生じる点を課題視。
- 意識調査では「高コスト・予算制約」・「データ範囲・取得精度等の限界」。

データ収集時における困難や課題

取得データごとにカウント。



データ収集時に試みた工夫

- 高額なデータについては、無償トライアル（動的データ）や、民間調査データ（静的データ）等を活用。
- データ提供事業者等との協議により、データの特性を検証しながら、測定目的に沿った範囲や精度を確保。
- その他測定機器の設置場所や情報公開範囲等についても配慮。
- 意識調査（アンケート）については、設計上の工夫で解決。

データ収集時に試みた工夫

活用データ	データの性質	データ収集時における困難や課題	データ収集時に試みた工夫
人流データ	動的	アカウント取得費が高額。各社金額もサービス内容も異なるが、路線単位での交通量を算出可能な民間事業者のサービスを活用。	無償トライアルのサービスを活用。予算措置の上、契約を検討中。
人流データ	動的	<ul style="list-style-type: none"> ・データを取得できる取得範囲に制限（半径1km）があり、継続的に取得するにあたっての範囲設定を検討する必要がある。 ・データは携帯電話のユーザー数から拡大推計するものであり、実数の精度に課題があった。 ・取得データを事業者などにも活用いただくためオープンデータ化を検討するにあたり、取得元とデータの公開の可否及び公開範囲において協議を要した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範囲設定にあたっては一定のエリアをあらかじめ設定し、人流の多いいわゆる中心市街地についてはエリアをさらに分割し取得することとした。 ・1日単位や狭い範囲ではデータの精度に不安が残るため、1か月または1年単位、一定範囲で取得することによりデータの精度をある程度確保することとした。 ・オープンデータ化を行うデータを1か月以上、千人単位とすることで公開可能となった。
人流データ	動的	携帯キャリアが扱うビックデータの活用を検討するものの、「経費が高い」「小さなメッシュでのデータ収集が困難」などの理由からスマホアプリデータを採用。 iPhone限定、アプリ登録者限定のデータの汎用性をどのように考えるべきかが課題。	正式採用の前に、データ収集の目的、活用の方法などについて取扱い事業者との協議を重ね、必要なデータ集計及び推計が可能であることを確認
人流データ	動的	予算的に、イベント実施日と正常時の2日間のみ測定した。通年の測定により、季節や天候による変化を見ることができると、データの有効性が高まる。	利用者の邪魔にならず、より多くの観測ができるような計測機器の設置場所
緑視率調査	静的	都心全体ではなく、特定の地点の情報となるため、調査地点の設定が課題	再開発等が予定されているなど、今後大きな変化が想定される場所についても、調査箇所に加えている。
1日あたりの歩行者交通量	静的	測定数が多く（約500地点）、予算の確保が難しいことから、5年に1度しか調査できず、直近の動きなどが把握できない。	民間事業者が実施する調査データを利用
中心市街地の利用目的 滞留時間など	意識調査	若年層の回答率の低さが目立ち、全年代のアンケート結果とならない	各年代に回答者数の上限を設けて回答者数が特定の年代に偏らないようにした。また回答×切も各年代別にそれぞれ設定した。
区民意識調査	意識調査	一部署において事業認知度のためだけにアンケート調査をするには費用対効果が悪い	全庁を横断して実施している区民意識調査に、事業の認知度の設問を追加し、一部署が費用負担することなく実施した

データ活用ニーズ：今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報

○機能の適正配置、交通ネットワークや歩行者の動線等を検討するための、回遊性・動線、交通分担率、駐車場の稼働状況等、動的データを中心とした移動に関するデータの収集ニーズが多い。

○また、都市整備やイベントの効果測定や機能への誘引の検討のための、来街者等の属性やアクティビティの把握、個人情報を含む顧客情報の収集ニーズや、地域の優先課題の把握や将来ニーズへの意向調査等のニーズもみられる。

今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報の例

都市再生の取り組み（目的）の例	具体的な目的の例	収集・活用を希望する情報の例
街全体＞総合	地区計画において個別建て替えのルール改正の検討	続的地区内建物の状況（床面積、容積率、用途等）
町全体＞総合	駅周辺の人流を把握することにより、将来のまちの歩行者動線を検討する基礎データとする	駅周辺の人流データ
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞商業施設	コロナ禍を経たことによる需要変動の把握	テレワークの実施状況やEコマースによる売上推移
人の活動＞住む＞住宅	まちなか居住を誘導するためのターゲット層の分析	再開発地区の分譲住宅の購入（居住）世帯構成
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	整備目標に合致した効果が顕在化したかの確認	来街者目的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	エリア内にオープンスペースを配置することによる滞在時間の変化やアクセスを改善することによる回遊性向上の効果の把握	エリア内の滞在時間及び移動経路
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	居心地の良い空間としての効果検証。空間の考え方やコンテンツの創出などに役立てるため	公園や広場で過ごす人の個人属性や活動の多様性
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	当地区に隣接する都市公園について、まちの更新に合わせて、公園と一体的な整備の可能性の有無についての検証を行うため	公園を利用する人の属性と目的、将来のイメージ
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	地域公共交通計画を策定するための基礎データとして市内の人の移動の見える化、公共交通を利用する潜在需要、より効率的・効果的な公共交通網の形成を行うため	人流データ、移動の目的、手段、OD、属性
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	どのような層が駅周辺のどの場所・時間帯に集まるのか検証（出店・イベント実施）を行うため。エリア内の基盤整備（特に道路）の優先順位を図るため。	駅周辺エリアを訪れる人の年齢層、性別
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進するにあたって、駐車場附置義務を含めた駐車場の必要性、在り方等について検討するため	駐車場の設置、利用状況
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	上位計画に基づき駅から施設まで直結した歩行者専用通路を整備することとしており、公共交通利用促進への貢献について効果検証を行うため	来街者の交通手段構成比（分担率）
都市基盤＞環境＞緑化	都心の緑被率が低く、都心のみどりの充実を求める意見が挙げられていることから、効果検証を行うことが有効と考えるため	緑被率、緑視率
都市基盤＞安全＞防犯対策	課題解決の方策を検討するため	防災・防犯、ごみ、違法駐輪等、ワーカーや来訪者が、課題として考えている場所とその課題の収集

参考：「今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報」のうち、指標一覧（案）外のもの

- 顧客属性やアクティビティ：配置機能の利用のされ方や潜在的需要の把握、目的との合致の確認
- 交通分配率、OD、駐車場利用状況等の移動手法：交通計画の策定や駐車場の付置義務条例の検証
- 市民の期待する将来展望、アクティビティのイメージ等の意識調査：都市の優先課題や需要の把握 等

今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報の例うち、指標一覧（案）外のもの

目的	収集・活用したい情報	データの性質
街全体＞総合	地区計画による個別建て替えに対する「効果」	静的
街全体＞総合	来街者の目的（商業・観光・業務など）	動的
人の活動＞働く＞オフィス 人の活動＞暮らす・遊ぶ＞商業施設	空きビル・空きテナントオーナーの意向	意識調査
人の活動＞働く＞オフィス 人の活動＞暮らす・遊ぶ＞商業施設	テレワークの実施状況やEコマースによる売り上げの推移	意識調査
人の活動＞働く＞オフィス 人の活動＞暮らす・遊ぶ＞商業施設	都市開発の需要等について	静的
人の活動＞住む＞住宅	再開発等により供給された分譲住宅について購入（居住）世帯の構成等	静的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	2 駅間利用者の行動詳細(利用目的)	動的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	バス利用者数・属性	静的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	ワーカーや来訪者が、公的空間（公開空地）等で利活用したいと考えている場所とそのアクティビティ	意識調査
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	公園を利用する人の属性と目的、将来のイメージなど	意識調査
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	公園や広場の過ごし方や活動の多様性	動的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	市内の人流データ、移動の目的、手段、OD、属性など	動的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞賑わい	駅周辺エリアを訪れる人の年齢層、性別	動的
人の活動＞暮らす・遊ぶ＞商業施設	交通手段別の消費行動	動的
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	バス利用者数・属性	静的
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	民間を含めた、駅周辺の駐車場の利用状況	静的
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	駐車場の設置、利用状況	静的
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	交通結節機能に係る二次交通への乗り換え状況	動的
都市基盤＞交通＞交通ネットワーク	来街者の交通手段構成比（分担率）	動的
都市基盤＞安全＞防犯対策	防災・防犯、ごみ、違法駐輪等、ワーカーや来訪者が、課題として考えている場所とその課題の収集	意識調査

今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報を、現在収集・活用できていない理由

- 全体的には「高コスト・予算制約」、次いで「データ収集方法不明」が多い。
- 動的データ（人流、車流）では「高コスト・予算制約」が6割近く、次に4割近くが「データ収集方法不明」。
- 静的データ（各種統計データ）では「指標が不明・未確立」が5割近く、次に3割強が「秘匿性」。
- 意識調査では「データ収集方法不明」「高コスト・予算制約」。

今後、可能であれば収集・活用したいと考える情報を、現在収集・活用できていない理由

